

1 学力向上ステップアッププラン1年目（H23年度）総括について

1 児童・生徒の状況

(1) 学習事項の定着(学力)について

(成果)

- ・本年度も教科によって多少のばらつきはあるものの全体的に良好な結果が多く見られた。特に3学年の大阪府学力テストの伸長率(対小6時)をみると、その成果が顕著に表れている。学力向上の取り組みを進める中で、落ち着いて授業に臨み、意欲的に学習に取り組む姿が年々見られるようになってきている。
- ・全学年を通して、国語科では漢字小テストの実施、少人数授業の充実、意見、考えの発表に取り組み、英語科では英単語チャンピオン、スピーチの実施、数学科では百マス計算や授業開始時の復習プリントを実施した。
- ・学校全体として授業の大切さを再認識し、授業内での生徒同士の教え合いや、習熟度別授業の持ち方に関しても校内研修等を通して議論が深まりつつある。

(課題)

- ・日常の授業での、学年・教科を越えた、学力向上に関する共通の視点（集団づくり・人権教育・生徒指導）を作り上げていく必要がある。
- ・少人数指導をはじめ、指導方法をより工夫・改善して効果的なものにしていく為の情報の共有や学年を越えた教科会議の充実、習熟度別指導についてなどをより研究・実践していく必要がある。
- ・教科を越えて活用できるツールを準備したり、生徒の自己評価や生徒の視点からの授業評価を取り入れていく必要がある。

(2) ゆめ力・自分力・つながり力・学び力・体力について

(成果)

「ゆめ力」

- ・将来の夢や目標を持っている生徒が7割以上と多く、1年時からのキャリア教育、職場体験、そして進路学習などの総合的な学習の時間の取り組みが活かされている。

「自分力」

- ・自分を振り返る学習などにより、自尊感情を約6割の生徒が認めており、高い傾向にある。
- ・友達と会うことが楽しく、人の気持ちがわかりたい、人の役に立ちたいと考えている生徒がやや多い。

「つながり力」

- ・ほとんどの生徒が、相手の気持ちを思いやり、友だちとの関わりを大切にしていると答えている。
- ・毎週行っている挨拶運動や各部活動での指導の成果として、進んで挨拶する生徒の割合が増えている。

「学び力」

- ・授業に対して肯定的な見方をしている生徒が多く、特に英語科において好きだ、よく分かったと考えている生徒の割合が高かった。

「体力」

- ・部活動がさかんであり、多くの部活が大会等において表彰されるなど互いに高め合っている。また、スポーツ大会を実施したり、体育の授業での水泳や持久走においてタイム表を掲示したりと体力向上に向けた工夫を凝らしている。

(課題)

- ・学習に対し将来大切であることは理解できているが、特に書くや考える、伝えるといった分野に苦手意識を持っている生徒の割合が高い。授業のどこかで自分の考えを書かせる・発表させる・友達の意見を聞く場を設けるよう心がける、分からないことを恥ずかしがらずに分からないと言える雰囲気作りが必要である。
- ・学習の成果をあげる上で必要不可欠な家庭学習が定着している生徒の割合が低く、家庭での学習習慣が身についていない。また、少数ではあるが基本的な生活習慣が不安定な家庭も見られ、それに伴って遅刻してくる生徒の姿も見られる。担任は保護者との連携を密にし、家庭訪問を頻繁に行ってはいるが、短期的な成果が見られない悩みもある。これまでの支援体制を強化し、外部機関との連携をさらに図りながら取り組みを進めていく必要がある。
- ・地域の行事へ参加する生徒の割合が低い為、部活等を通して地域の活動への積極的な参加を促す。

(3) その他(学校が着目する点について)

◎生徒による自主活動の強化(自治力の向上)

- ・日常の学年、学級、班での仲間作りや様々な学校行事、生徒会活動において、生徒が主体的に生き生きと活動できる場面を多く作るように心がけている。天王中フェスティバルでは、生徒一人一人が自分自身が主役だと感じることでできる行事になったと感じており、生徒主体の行事になりつつある。また、体育大会や卒業式等の行事や部活動を通して、先輩から後輩へ良き伝統の継承も行えつつある。
- ・どの教科においても『学び合いの集団』を意識した“生徒同士のつながり”のある授業を、それぞれの教科特性に合わせて取り入れて、生徒同士の互いに学び、互いに注意し合える関係づくりを目指している。
- ・行事の企画や進行、授業規律の確立などを生徒の力で行っていく中で中心となるリーダー層の育成が課題となっている。

2 学校の取組について

(1) 本年度の学力・体力向上の取組について(成果と課題)

(成果)

- ・校内研究授業の実施(3回/年) 研究テーマ:発表力の向上と教え合い学習
 - 1回目:数学科(6/8) 研究テーマ:発表力の向上と教え合い学習(習熟度別学習)
 - 2回目:理科(11/17) 研究テーマ:ICTを活用した実感する授業
 - 3回目:国語科(2/14) 研究テーマ:習熟度別授業の展開について グループでの学び合い
- ・数学科において大阪府パッケージ研修(一柳指導主事に指導を仰ぎ)による研究授業(4回/年)を実施。
- ・英語科では教科代表が教育センターの言語教育所員として7月に研究授業を行い、その授業を収めた『我が校の授業紹介シート集DVD』を活用して、教科に指導法を広めた。
- ・『部活駅伝』の実施(2/10) 本年も運動系部活を中心に約30チームが参加。大きな盛り上がりを見せた。
- ・生徒会主催の『部活アワード』を開催。生徒らによる互いの激励のメッセージを掲示し、意欲向上に努めた。
- ・陸上部+バスケットボール部など、部活の垣根を越えて合同練習を行い、体力向上に向け高め合っている。
- ・学力向上の様々な取り組みを通して、職員の魅力ある授業づくりに向けて意欲・関心がさらに高まってきており、研究協議においては、どのグループも熱心に意見交換を行い、質問も多く飛び交った。
- ・放課後学習会、長期休業中の勉強会の実施を全学年とも継続実施。

(課題)

- ・日常の授業での、学年・教科を越えた、学力向上に関する共通の視点(集団づくり・人権教育・生徒指導)を作り上げていく必要がある。
- ・習熟度別指導をより研究・実践していく必要がある。教科を越えて活用できるツールを準備したり、生徒によるふりかえりや自己評価、授業評価を取り入れていく必要がある。
- ・体力向上に向けた具体的な施策を考えていく必要がある。

2

3年間（H23～25年度）の取組について

1

3年間の重点課題

	重点課題	検証軸	25年度の到達目標
①	・生徒同士が共に学び合える授業づくり ～学び合う共同体へ～	・全国学力学習状況調査 ・大阪府学力学習状況調査 ・学校教育自己診断	・授業内でグループ活動、教え合い学習などを取り入れた授業の割合を増やす（50%以上） ・全国学テ・府学テの平均正答率の向上
②	・基礎・基本の徹底と学習意欲の向上 ～ユニバーサル・デザインの授業づくり～	・全国学力学習状況調査 ・大阪府学力学習状況調査 ・学校教育自己診断	・正答率40%以下の生徒の割合を減らす ・生徒の授業満足度の向上 目標(満足:6割以上)
③	・体力向上と主体的に取り組む意欲の向上	・新体力テスト・健康調査アンケート ・部活動加入率	・体力テスト総合A・B評価の割合を増やす ・運動が好きな割合を増やす ・部活動加入率を増やす（90%以上、外部活含む）

2

3年間の取組計画（H24年度）

3年間共通の計画	年度ごとの計画	
<p>①授業での反復練習・基礎学習のより一層の充実に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学：100マス計算、国語：日々の漢字ドリル、英語：英単語チャンピオン、レッスン毎のリーディングテスト等。 ・各教科における<u>単元毎の確認テスト</u>の実施、単語や漢字の学習をスパイラルに行っていく。 ・全校一斉の学習会(1回/月)の実施と低学力生徒への学習支援として放課後勉強会の開催等。 ・朝読書の継続実施と朝学習・<u>ブックトーク</u>の新たな実施。 ・家庭学習の充実(<u>自学ノートの作成</u>と家庭との連携強化) <p>②授業力向上・ユニバーサル・デザインの授業づくりに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業・校内研修の充実。 若手教員の授業力向上に向けた若手勉強会の発足。 ・授業形態の工夫、少人数制習熟度別授業の実施、一斉授業における習熟度別授業の研究から実践。 ・コンピュータやプロジェクター、電子黒板といったICT機器を活用した情報教育の推進。 <p>③体力向上と主体的意欲の向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活紹介や部活間の連携強化、部活動での頑張りを互いに評価し合う。 ・部活対抗駅伝の実施、体育大会での学年種目の設定 ・小中連携(<u>部活見学・入学前部活体験・インタビュー</u>等) 	平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3カ年計画の具体的取組の実施(<u>朝学習</u>、若手研修会の実施等) →来年度の見直し課題 ・推進体制の整備 ・計画の評価と見直し
	平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3カ年計画の具体的取組の修正(改善プランの実施) ・計画の評価と見直し
	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3カ年計画の具体的取組の修正(改善プランの実施) ・3カ年計画取組の検証(成果と課題の抽出)

(見直し)

※ は本年度、十分に実施できなかった項目。

- ・日常の授業における共通の視点を作りあげる。 3 観点 (集団作り・人権教育・生徒指導) の周知徹底。
- ・授業開始時の挨拶、導入、授業目標の設定、振りかえりなど、授業設計の共有化。
- ・教科だけでなく学年を繋ぐ学力向上担当者を各学年に設置し、学力向上担当者による定例会の実施。
- ・教科を越えて活用できるツール作り、学力向上委員会からの保護者向けの通信の発行。
- ・朝読書のより一層の浸透を目指すため、現段階では朝学習は各学年とも導入しないことを確認。朝読書からブックトーク、おすすめ紹介等へと生徒の活動の広がりを持たせていきたい。
- ・家庭学習の充実は今年度も大きな課題であり、各教科の取り組みを参考に見直しが必要である。
- ・体力向上にむけた施策の練り直し、部活動の見学会などの小中連携の強化が必要である。
- ・習熟度別授業の見直し (授業の持ち方、クラス編成など) 来年度国語・数学・英語の各教科で改善案を実施していく予定である。

3 推進体制

